



（発行所）  
 青山同窓会  
 〒951 新潟市関屋 下川原町2-635  
 新潟県立新潟高等学校内  
 TEL 025-266-5268  
 FAX 025-266-5268  
 （編集、発行人）  
 上村光司  
 （印刷所）  
 オリオン印刷 ㈱  
 〒950 新潟市南出来島1-19-1  
 TEL 025-283-2151  
 FAX 025-283-3804

# ごあいさつ

青山同窓会会長

37回 鈴木正二



そして、年齢の若い層にも、同窓会の輪が広がったことも大変喜ばしいことです。これからも青山同窓会である

## 東京青山同窓会

### 新人歓迎会に喜ぶ

#### 一〇一回生

昨年の百周年記念のいろいろな事業には同窓の皆さんの母校への熱い思いが結集されて、盛大に挙行されました。今でも感謝の気持ちで一杯です。各期の幹事さんの力、幹事会の働きに感謝しています。同窓会も次なる節目に向けて、着実に新たな第一歩を歩み始めています。同期会や、クラブのOB会など、百周年をきっかけに、新しい集まりも始まったとも聞いています。

五月十四日夕方、東京青山同窓会新人歓迎会が開かれました。日本橋の東洋経済ビルに、今春東京および近郊の大学や予備校に学ぶことになった新しい卒業生百一回生が招かれ、大先輩たちから暖かい

れたお話、会長斎藤伸雄氏のスケールの大きな将来への希望を語る言葉、さらには東洋経済新報OB豊岡富米氏の自らのチャレンジと挫折、そしてあくなき開拓精神の軌跡を語る迫力満点のスピーチが続き、新人達は深い感銘と、こゝからの学問研究への多くの示唆を与えられたのでした。

同窓生同士が、杯を交わし、歓談を重ね、たちまち年齢の差を越えた和気あいあい親子のような心持ちになって、談笑の輪は広がってゆきました。クラス毎の記念写真撮影の後、新旧の校歌と応援歌を歌う頃になると、青山精神の高揚は頂点に達し、エール、「丈夫」そして、激励の雄叫びは、東京の夜空にこだましました。

百一回生は、例年以上に元気で、男子も女子もマナーが



良く、新時代の青年らしいすがすがしさが印象的と好評でした。慣れない一人暮らしをしてきた新人同士が、久しぶりに友と会い、また就職の世話までしてくださっている東京青山の先輩との出会いに、大いに英気を養い、

意を強くして、うれしい二次会へと三々五々繰り出して行きました。

青陵特集号  
 (回顧録)  
 購入希望の方へ



平成五年三月、創立百周年記念青陵特集号(回顧録)を発売致しました。購入ご希望の方は、新潟高校青山同窓会まで、葉書かFAXにてお申し込み下さい。

一冊 一〇〇〇円  
 (送料三一〇円)  
 FAX 二六六一五二六八

## 新潟高校創立百周年記念講演会(その2)

(平成四年十月十七日)

## 行く手はるけき

## 62回 永井 梓

(読売新聞論説委員)

齋藤先輩の後でございます。おやおや、まだもう一人いたのかという感でございませうが、もうしばらく辛抱願います。

六十二回の卒業でございます。本日は皆さんと一緒に、母校の百周年を祝うことができまして、それだけでも大変幸せなのでございますが、その上にこうして高いところからお話までさせていただきます、光栄これにすぐるものはありません。非常に嬉しく思っております。我が齋藤大先輩のお話の後でございます。齋藤先輩の、刺身つま程のお役に立てるかどうか、それもおぼつかないのですが、お許しをいただきまして、しばらく時間を頂戴いたします。

昔話から始めます。私がこ

の学校に入学を許されましたのは、昭和二十六年のことでありました。今から四十一年前になります。今年、母校は百周年を迎えた訳であります。私が二年生になりました時、その年がちょうど六十周年。こういう巡り合わせの年でありました。その年に、先程皆さんと一緒に歌わせていただきました、「百里流れて」のあの校歌が初めて制定されたのであります。私共が入学した時の校歌は、「新中

みますという、ちょうど、旧校歌から新しい校歌にバトンタッチされた世代なんだなあと。新中のスピリットは「質実剛健」だったと聞いておりますが、そのバトンを受け継ぎまして、私共の世代は一体何だったのか。まだバトンタッチをしたばかりの頃が在校時代でありますから、どんなことかよく分からなかったのであります。今にして思

いますと、「質実剛健」を背に負いながら、もう少し伸び伸びと、自由闊達(かくだ)でも申しますか、それが新しい精神かなあと、模索していた時代だったかと、そのように今振り返っております。

時代は、私が昭和二十六年の入学でございますから、「六三制野球ばかりが強くなり」などと先輩の世代から

かわれ、学力低下が言われた頃でありました。「六三制野球ばかりが強くなり」——中学生のころは朝から晩まで、遊びと言えば、最近ほど色々なものですか、野球ばかりやり、暗くなるまで遊んでおりました。因みに私が読売新聞に入りましたのは、昭和三十三年でありました。昭和三十三年は、今週の初めにあの巨人軍に復帰しました長嶋茂雄という男が、巨人軍に身を投じた年であります。最近見られるような時代でありましたが、まさに「六三制野球ばかりが強くなり」、そんな、学力低下が言われた時代でありまして、「玲瓏(れいろう)の天仰(あや)ぐ時」という、漢語の多いと申しますか、「玲瓏(れいろう)の天」であるとか、「胸(むね)爽(さわ)い」であるとか、色々(いろいろ)難(がた)しい言葉の入った校歌を我が物と致しまして、これが自分の校歌なのだ、こう言い聞かせたときは、何やら少しは大人になったかと、そんな気持ちを持ったことを今思い起しております。

そのやや難しいと思つた校歌に馴染んだと思ひましたら、翌年、二年生になりましたときに新しい校歌の制定です。「百里流れて」でありました。何しろ、ちょっと大人になったかという感で、「玲瓏(れいろう)の天」を我が物にしたばかりでありましたから、その歌詞の平明さと申しますか、新しい、非常に新鮮だったのですけれども、その平明さが、新しいけれども、何やらいささか易(やす)すぎるかなというような感じを持ったことも、また思

い出すのであります。四年前に昭和から平成に元号が変わりました。あの時、まあどんなにも多少の違和感といったものを感じられたかと思うのですが、また、何であれ物事が移り変わるときは、そんな感じ——何かちよつとしくりこない——こういうようなところがあるのかもしれない。しかし、その、「百里流れて」にもやがてはすっかり馴染んで、その校歌に送られて私共は卒業した訳であります。

私共を狭(せま)くしまして、一年先輩、そして私共の一年後輩、その三つの学年が、入る時は「玲瓏(れいろう)の天」、出ていく時は「百里流れて」。こういうところがあつた訳であります。でありますから、私は「玲瓏(れいろう)の天」にも「百里流れて」にも、等しく愛着を持っておりまして、どちらも優れた校歌だと思っております。多くの、頼りた青山を象徴する、どちらも優れた校歌だと思っております。

「百里流れて」の中には、「古き誇りを新しく」という一節がございます。校歌のバトンタッチに巡り合わせました世代と致しましては、その一節に、とりわけ感慨深いものがございます。先程も申しましたが、「質実剛健」を引き継いで自由闊達に生きていく——バトンタッチに感慨を持つのは、何も、私共の世代に限ったことではございません。ここにいらつしやる在校生諸君もまた、古き誇りを新しく、宜しく受け継ぎ、そして宜しく引き継いで行って頂きたいと、こう考えます。

さて、ここ、新潟市体育館は、私共の高校時代には存在していませんでした。でありますから、この度こういうお

話をお引き受けするに当たって私の頭を過りましたのは、古い、自分達が学んでいた校舎でありました。あれは焼けてしまっていないのですから、そのような所で私が話をする訳はございませんけれども、やはりふつと思ひ出すのは、昔のあの古い建物であります。目をつぶると今でもあの校舎が浮かんで参ります。目を開けると、目の前には四十年前の自分かと思ふような諸君が並んでいる。非常に懐かしく思ひます。ただ、あの頃の我々の仲間には九パーセント以上の九十五パーセントは丸刈りでした。女生徒を一番前に並べれば、その辺で終わりでした。私共の一年先輩から、初めて女子の生徒七人がこの学校に入ってきたのでございます。

学校が燃えたのは、私共が卒業した昭和二十九年の春でした。私共が卒業した途端に焼けた訳です。一年下の諸君は修学旅行の最中でした。ですから、もう、かつての母校へ行っても、昔を偲ぶ縁と言へば、先程ご紹介がありましたように、私は水泳部でありましたので、泳ぎ暮らしたプー

ル、その辺にはまあ、残っている訳であります。やはり寂しいものであります。あれから茫茫四十年の月日が経過したのだなあと、しみじみ思ひます。しかし、やはり、ふつと目をつぶってみますと、それはついで、つい昨日のこのように思われるのです。新潟高校は実に良い学び舎でありました。昨日のこのように思ひ出せませう。

当時の校長先生は儀幸次郎さんという人でした。名物校長として、送って頂きました。「百年史」にも出ておられますが——この学校が自由闊達だというのは、いいんですねえ。——あの校長先生についての戯れ歌がありまして、それが載っていました。「入学式に来てみれば壇上で睨む電気ダコ」。頭の禿げた人なのです。私共が覚えておられますのは「壇上で睨む禿げ頭」だったのですが、頂いた「百年史」には、「壇上で睨む電気ダコ」とありました。そういえば、「電気ダコ」というニックネームも先輩から教えられたことがあります。続く一句は、「さながら地上の初

日の出、空飛ぶひばりも眩しかろ」などと続くのです。私は「眩しかろ」で覚えていたのですが、「百年史」を見ましたら、「眩しがる」と書いてありました。まあ、そのようなことはどちらでもいいのですけれど。

しかし、この先生を、私、禿げ頭だけで覚えている訳ではありません。大変、式辞などの格調の高い方でありました。教えて頂くことは色々あった訳でございます。「卒業式つてのは英語で言うと、コメントって言うんだぞ、諸君。卒業は終わりではなくて始まりなんだ。こうおっしゃって、私共が卒業するとき、卒業生を鼓舞して下さいました。また、叱咤激励、鼓舞するだけではなくて、「パーティングイズ、スウィートソロー」などと、カッコつけてましてね、「別れは甘い哀しみである。」などと、その鼓舞激励を、甘い衣で包んで下さった名式辞を、今でも思ひ出します。こうして私共は「行く手はるけき」人生に船出したのであります。

本日、私は、そこに演題を「行く手はるけき」などと致しました。漠然とした、とりとめもない題でございますが、この話をしると言われました。時に、話の中身は何にも浮かばないうちに「行く手はるけき」という言葉が何故か頭に浮かんだのです。新聞記者としては邪道であります。記事ができる前に見出しができてしまったと申しますか、「行く手はるけき」ということで、何か在校生諸君にエールが送れるような内容になれどと思つて、この演題を届け出ました。「斎藤先輩からはこういう演題をすでに頂いておる。お前はすつと後輩なのにまだ演題を出しておらんじやないか。」こういう訳で、話の中身が決まらないうちに付けた演題でございます。大変失礼でございますが、それに沿つて一所懸命、今こうしてお話し申し上げている次第です。

ただ、昔話を校歌から始めましたのも、そう意味のないことではございません。非常にいい歌詞だからです。悪いことは申しません。校歌の歌

詞など、卒業の後までいちいち覚えてられるか、などという顔をしている方も、二・三いらつしやるようですけれども、まあ悪いことは申しませう。覚えておいて下さい。あの、「行く手はるけき」の一節だけでもいいのです。これが、非常に意味があるのです。これから長い人生、あなた方を、何が待ち構えているか分かりません。その時に、——何か失敗をしたり、いささかでも挫折感などを味わつた時に、——この一節を思ひ出してごらん下さい。ロズさんでござらんさい。「行く手はるけき人生だ。行く手はるけき人生だ。」と。すると、失敗しても、「なんだこれしきのこと、先は長いぞ。」と、「これからいくらでもやり直せるんだ。」と、こう自分に言い聞かせることができるのであります。私もそうして生きてきました。何度も失敗しました。新聞記者の世界というものは、「抜いた」「抜かれた」と、こういうことはよくお聞きになるでありません。私などは自分の担当している部門で、

相手の、ある新聞社が、その年の新聞協会賞を取つたなどという大変なことをやられた経験もござります。しかしこうして、相変わらず、餽首にもならず、新聞社で飯を食べたりしておりますから、「行く手はるけき人生だ。」というこの念仏も、なかなか効果があるのであります。ガックリこないのです。下手な念仏よりよほど効果があると思ひます。母校の校歌でありますから効果は間違いありません。

しかし、私ぐらいの年齢になりますと、肉体的、年齢的には、もう「行く手はるけき」などと言つてはいただけません。もうそろそろ定年という時期になつていく訳であります。

ただ、肉体的年齢は「行く手はるけき」と程遠くはあります。でも、事が何あれ、一つの業をなそうと思つたら、これはもう幾つになつても「行く手はるけき」なのであります。

私は新聞記者を三十五年やっております。先程ご紹介に与りましたように、論説委員というものを十一年やっております。その途中、夕刊の「よ

## 行く手はるけき(続)

みうり寸評」というコラム担当となりまして五年になりました。しかし、勿論、これではないなどと思ったことは一日もありませんし、毎日が、失敗の恐怖との闘いみたいなものです。私は、ですから、コラムを書いていくというよりは、毎日恥をかいているつもりです。

さて、「行く手はるけき」、その人生に対処するには、どちやうっていいか。要諦は色々あると思います。

人によって数々あるとは思いますが、今日は、私、ノーベル賞を受賞されました江崎玲於奈博士のお話を少ししてみたいと思ってやって参りました。何だ、文科系の人間で、ノーベル賞などとはおよそ関係のなさそうなお前が、何で江崎さんの話かと、こうおっしゃられるかもしれません、新聞記者の商売というのは、その辺が得なのであります、多少、ご縁がない訳でもございません。

この春から江崎先生は筑波大学の学長になられたのであ

りますが、その前はアメリカにお住まいの傍ら、私共読売新聞の、客員論説委員を引き受けてくださっておられました。アメリカから日本へおいでになる度に、一度は必ず私共の論説委員会に出席して下さいます。論説委員会という

かを連れて、昼間からお酒を飲ませて下さったり、てんぷらを食べさせて下さったりと、非常にいい先生であります。その江崎先生が、ノーベル賞を受賞される前でありましたが、「ノーベル賞を取るためには、五つ考えなければならぬ事がある。よりはずきり言え、五つしてはいけない事がある。」



事がある。」こう考えられたさうであります。さて、ノーベル賞を取るためには、五つの事とは何であるか、

まして、明日の社説のテーマはどういうものでやるか、どういふ論調で書くかというのとを、毎日ディスカッションする訳であります、その席に江崎先生は来て下さるので、色々いお話をして下さいました。お話を聞かせて下さった後では、その内の何人

「これが第一ださうであり、第二は、「他人の影響を受けすぎてはいけない」。三つ目は、「無用なものはずべて捨てなければならぬ」。四つ目は、「闘うことを避けてはいけない」。五つ目。これは「いけない」とは、少し違うのですけれども、「何か

絶対的なものを信じなければならぬ」。この五つださうであります。三つくらいだと覚え易いのですけれども、あの先生は頭がよくていらっしゃるから、五つも考えてしまったのであります。

少しくどいようですが、五つ繰り返して申しますと、第一の、「行き掛かりに囚われる事ばかりやっていくだけでは、新しい事は決して生まれませんから、ノーベル賞など取れるはずがありません。ルールが破られ、或いは変更されるところに創造性が生まれてくるのであります。そう江崎さんはおっしゃっておられました。第二の、「他人の影響を受けすぎてはいけない」。これもまた、よく分かるのであります。非常に学殖の深い大先生に師事することは、これは大切なですね。習わなければいけません。教わらなければいけません。けれども、大先生の教えにのめり込みすぎると、自分で自分のプログラムを書く能力まで失ってしまい、教えて下さる大先

生はノーベル賞を取るかもしれませんが回つてこない、こういう事になる訳であります。三つ目の、「無用のものはすべて捨てなければならぬ」。私共の、新聞社であるとか、テレビ局であるとか、大変たくさん情報を提供しております。世の中は情報化社会、必要な情報と同時に、無用な情報もまたたくさんあるのだらうと思えます。それに一朝から十まで付き合つて、朝から晩までテレビなどに係わり合つていたのでは、もう頭はパンクしてしまいます。必要な情報を如何に選別するか――

「無用なものはすべて捨てなければならぬ」。これが三つ目の、してはいけない事です。四つ目の、「闘うことを避けてはいけない」。これは「逃げるな」ということでありましょう。江崎先生のご経歴をご覧になれば、領けることかと思えます。五つ目の、「何か絶対的なものを信じなければいけない」。これは前の四つとは違う趣がございますが、科学者は、自然の中に

ある法則のようなもの、つまり絶対的なもの、本当に絶対的なものを追究する、それを追求するところに創造性が生まれてくると、こういうことを先生はおっしゃっておられたのだと思えます。

私などはノーベル賞などとはおよそ無縁の凡俗の徒であります、非常に教えられる話だと思いました。ノーベル賞などという、その高い高い峰をめざすのでなくとも、一人ひとりが人生を生きていく上で、心してよい話だと考える次第であります。或いは在校生諸君の中には、将来ノーベル賞を取るような人が、その辺に潜んでいるかもしれません。そういう人には一層意味のある話かと思えます。忘れたら私に電話をください。五つ教えてあげます。江崎先生はもう一つこんな話もして下さいました。「模範」という言葉がございます。「模範生」という言葉がございます。その言葉にぴったりくる英語は、ないのではないかと。アメリカに長くお住まいの先生でありますから、私は英語をそうよくは分かりま

せんけれども、先生がアメリカで学生にお聞きになってみたところ、それは「グッド イグザンプル」であろうと、こうアメリカの学生は答えたそうであります。しかし、これは日本と言う「模範」とは、ちょっと趣が違つたのです。ニュアンスが違います。日本で申しますと、「模範」とは、手本でありまして、「模範」に合わせていくところに、何かその、画一性といったようなものが、非常に色濃く出てくるという感じがあるかと思ひます。先生は、「模範」に合わせた画一的な「模範生」であるよりも、一人ひとりが個性的な「グッド イグザンプル」たれと、こうおっしゃつたのだと思ひます。「グッド イグザンプル」を志したいものだと、私も思つております。それはなかなかできないことでありますけれども。

さて、ノーベル賞などと申しますと、やはりどのようなに申しまして、身近とはとても言い難い話でありますし、個性化であるとか、画一化だとかは、あの、臨時教育審議会だとか、中教審だとかの、

何とも、めんどろな教育改革の話に聞こえますので、うんざりという向きもあるうかと思ひます。それで、これまで紹介致しました江崎先生のお話を、私流に、ぐつぐつだけと申しますか、いささか乱暴ではありますが、ひとくくりにして翻訳いたしますと、このようなことになるのではないかと思ひます。「精一杯好きなように生きようじゃないか」と。いささか乱暴であります。たつた一度の人生でもらつては困ります。好きなようにと言つても、勝手気ままに寝転んで遊んで暮らせと、こういうことを申し上げている訳ではありません。自分の好きなことを、できるだけ早く見つけることが大切だと、こういうことを皆さんに申し上げたいのであります。

自分の好きなこととは、自分に向いてゐることの場合が極めて多いだらうと思ひます。自分の好きな、自分に向いてゐることを仕事として生きていく。人生これに優る幸はないと思ひます。

去年の労働省の調べにより、

まずと、大学を卒業してから三年間の間に、職を替えた人間がおよそ三割いるということとあります。昔ではあまり考えられないことであります。何をやっても食べていけないような世の中になつたせいでもありましようか。或いは、会社が青田買いなどというところをやめるからでありましようか。いずれにせよ、その会社とその就職した人間のミスマッチというものがしばしば起きておりました。「第二新卒」などという言葉ができてゐることはご存じかと思ひます。「行く手はるけき人生」と私申しましたから、その第二新卒でもそれがうまくいけば、それで一向に構わないと思ひますし、第二新卒の方が一度失敗して自分を見つめ直した結果でありますから、その方がいいなどということも言う方もございます。確かに、そういうケースもあるのです。しかし、ひとたびバブルがはじけて参りました今日、昨年度までのようには「第二新卒」があまり重宝されていないのではないでしようか。結局、第二新卒でも第三新卒でも何

でもいいのですが、とにかく、終生自分の仕事とするに足る好きな事が見つけられれば、それでいいのです。それを見つけることが肝要だと思ひます。それを見つけないと、近頃の「フリーター」のように生きていくのでは——食べることができませんので、何をやっても。最近では豊かな社会でありますから。——ただそれは、寂しいと申しまうすか、悲しいと申しまうすか、若いうちはいいのですが、年をとつてくると寂しいのではないでしようか。

大学進学でもやはり同じことが言えると思ひます。大学を出て就職するときの話は、まだ大分先のことのようにお考えかもしれませんが、在校中諸君は大学進学を考へる場合も、所謂、偏差値ばかりに目を向けないで、本当に俺は、私は、何が好きなんだらう、何が向いてゐるんだらうと、それを一生懸命考へてもらいたいと思ひます。少しばかり成績がいいから医学部を選ぶなどというお医者さんには、私かかりたいと思ひませんね、危ないですよ。

皆さんは「行く手はるけき」人生に向けて、現在あらゆる可能性の塊であります。そのあらゆる可能性の中から、自分は何が好きなか、何が一番向いてゐるのか、それをうまいこと見つけていたください。こう思ひます。これが今日の私の話の主題であります。

そろそろ時間も参つたようであります。とりとめのない話を続けましたが、最後にもう一つ「行く手はるけき」人生に欠かせないものについて、お話し申し上げたい。これは平凡なことでございますけれども、——これは江崎先生の受け売りではありません。皆さんもそうお思ひになるであらうということ。——どうしても欠かせないもの。それは、友人、友情であります。

青山百年のこの催しが、今日のように盛大に行われましたのも、その根っこには、綿々と続く人と人との繋がり、人と人との友情、縦と横の人の繋がり、これがあると思ひます。同窓の友情がこの百年の催しをこうも盛大に開かせてくれたのだらうということ

多くは申しませぬ。私は新鴻が大好きです。新鴻を想ひ、青山を想うとき、そして、友人を想うとき、会津八一先生のこの歌を思ひ出します。

ふるさとのほまのしらすな わかきひをとにもふみけむともをしぞおもふ

こういう歌であります。歌などを引用するときれいすぎるのですが、現実には、今日の青山百年の記念式典の当日であります、今日の朝、青山の友情に救われたのです。

昨日、私、東京からやつて参りまして、昨晚、お酒を飲んだのですが、新幹線に乗る前からちよつと歯が痛かつたのです。ですが、治まつていたものですから、喜んで昨晚はおいしいお酒を飲みましたところ、今朝方になりました。

ズキズキズキズキと右の奥歯が痛み始めたのです。私、高校を卒業してから歯医者さんというものには一回しかかかつて、

たことがなくて、——勿論全部自分の歯でありますし、歯が痛くなつたなどという経験がほとんどないのです。ところが、この大事な、しかも、

行く手はるけき(続)

お話をしなければならぬ朝に、非常に痛いです。触るともう噛めないようでありまして、左はなんともないというので左で噛んでも、右が下の歯に少しでも当たると痛い、こういう事態に陥ってしまいました。ところが、さあ全く精進が悪かったなあ、弱ったなあと思いがから閃いたのが、同級生の歯医者さんの顔でありました。

タクシーを拾って行ったら十分もかからないところに、彼は開業していたのでありました。朝起きてすぐでしたので、病院の開いていないうちに、電話を致しましたところ、「今すぐ来い。」という返事で、病院が開く前に飛び込みました。何ということはありません。まあこれ。グラグラしているねえ。取っちゃおうよ。」と、右の一番奥の親知らずでありますが、これを簡単に抜いてくれました。「おう、今日は君が苦勞だね。あ。しゃべるの三時だね。この薬とこの薬出しておいたから、しゃべる頃には治まってよ。」薬をいただいたて参り

ました。ここにございます。家に帰りまして、痛み止めと炎症止めを飲みましたところ、この会場に着いた時には、もう痛みはどこにもございませ

ん。こうして、話の内容はともかく、本日の責めを塞ぐことができませんでした。これは偏に青山百年の友情のおかげでございます。会場に神成先生

らっしゃいましたら、本当に有難うございました。

とりとめのない話で失礼でありましたが、最後に、在校生諸君の「行く手はるけき」人生が実り多からんことを祈りまして、お許しをいただきます。有難うございました。

池政栄先生 逝去



弔 辞

池政栄先生(旧職員、歴史担当、現新潟市郷土資料館顧問、八一歳)が、六月七日末明新潟県立ガクセンターで、逝去されました。

故池政栄先生の御霊前に謹んで弔辞を捧げ、心から哀悼の意を表します。

同日、西セレモニホールで行われた告別式では、卒業生を代表して長谷川義明市長が、弔辞を捧げました。こ

の濃厚な見守りと祈りもむなし、ついに帰らぬ人となりましたことは誠に痛惜にたえない。人の世の定めとはいえ、そ

の訃報に接し、私は深い悲しみで言葉を使い、人生の無常を嘆かずにはいられませんのでした。

私にとりまして、県立新潟高等学校時代における先生との出会いは、その後の人生の方向を決定づけた大きな出来事であり、高邁なる識見と闊達なうちにも慈愛に満ちた先生のご人格にふれるたびに、青春の苦しみの中で、私はどれだけ勇気づけられたか知れません。

「もうだめだ、と思う向うに道がある。」先生がよく私どもにお示しいただいたお言葉です。「もうだめだ、と思う向うに道がある。」

今、こうして、先生にお別れを告げていても、当時の先生のお言葉が鮮やかに蘇り、やり場のない深い悲しみに胸がふさがる思いでございます。

先生は常に物事に對し、真剣心の中に、長く生きつづけていくことでしょう。

池先生、永い間本場にありがとうございました。

池政栄先生、心から哀悼の意を込め、お別れの言葉といたします。

いつ、お会いしても、変わらぬ笑顔で、時にユーモアを交えながら叱咤激励してくださった先生、そのあたたかい笑顔を思い出すとき、追慕と哀惜の情、まさに切なるものがございます。

先生が残された、豊かな人生観に裏打ちされたお言葉の一言ひとことは、私たちの胸に深く刻まれ、これからも人

生を指針として、それぞれの心の中に、長く生きつづけていくことでしょう。

青山同窓会クラブ誕生



長谷川義明

古町六番町JTB向い(一ノ小路奥3F) 電話 二二九一四四三四 同窓会員のご来館を歓迎 メンバー料 年二〇〇〇円 午後三時より、六〇〇円

### 旧職員

## 川島正先生を偲ぶ

### 旧職員 阿部 正

先生は昭和二十一年七月本校に赴任された。それ以来、昭和四十六年定年になられるまで学校で英語教師として熱心に師弟の教育に当たられた。定年後は新潟南高校、新潟明訓高校、予備校等で最近まで御元気で教鞭をとられていた。

しかし二年程前から脚の故障等で入院手術をされる時もあり、その度に体の不調を訴えておられた。そして心臓病が悪化、一月二十九日ついに他界され、二月一日にたくさんの人達に見守られながら別れを告げられたのであった。先生は本校に来られる前は鳥羽、村上、長岡の高校に勤



務されたが人生の最も充実した時に本校に勤務され、長い間進学指導主任、英語科主任として活躍、進学校としての実績の向上に尽力、貢献された。

自分の事のように悲しまれ何度もお見舞をされたことを聞いたことがあり、思いやりのある先生でもあった。先生からまだまだ長生きをしてもらって御元氣なお姿に接したかったのであるが、病には勝てず、もはや幽冥境を

### -61回生-

## 卒業四十周年

### 記念の集い

去る六月十二日(土)、瀬波温泉に於て第61回生(昭和28年卒)の卒業も四十周年記念同期会を開催した。

登録メンバーは渡辺秀央・大橋禎助の両先生、紅一点伊藤藤英子女史、ゴルフペア参加の婦人五名を含め丁度七十名。午後一時市長公舎で、長谷川市長より新潟市の主要プロジェクトを中心とした「新潟市のまちづくり」についてのスピーチをお聞きしたあと車で移動。

ホテル汐美荘では、記念写真撮影のあと団長先生恒例の短冊を十枚頂き、早速抽選のジャンケンポンで熱気のこもること。この日の直前の六月七日にご逝去された池政栄先生はじめ、近年亡くなられた級友に黙禱を捧げた後、新旧校歌を村上市在住の居城君の指揮で斉唱して懇親会を開幕。四十年前の青年時代までタイムトンネルをぐり抜け、心ゆくまで歓談の輪が広がる。またメンバーチェンジして談笑が果てしなく続くうちに、仲居さんの無情な水入り宣言。こゝでまた懐かしの応援歌の大合唱となったのは言うまでもないが、極めつけは団長先生が自ら音頭をとった「天は晴れたり」で、いつまでも脳裏に焼きついて残ることだろう。

翌日、ゴルフ組は、東京勢十五名・新潟勢十八名、市長夫妻を含めた総勢三十三名(うち夫人五名)の参加で、十八ストロークプレイ、ダブルペリア方式で加藤栄一君が優勝。

観光組は、皇太子妃雅子さまゆかりの村上市の郷土資料館、国重文の若林家等をこれまた団長さんの解説を頂きながら見学した次第。

恩師と共に過ごした楽しい記念すべき同期会でした。もうだめだ と 思う向こうに道がある」

わが池政栄大師の生命 永遠に光りあれ。 合掌 幹事 小杉記

渡辺秀英先生の「良寛書画集」出版記念会

二十三年間、青山の教壇に立たれた渡辺秀英先生は、八十三才になられた現在も、若々しい発想で書や歌、作詩、良寛研究などに打ち込んでおられます。

此のほど、良寛の漢詩のころを、先生の独想の和歌と、更に飄々たる墨絵の世界に遊ぶというユニークな書画集が刊行されました。よって左記により盛大な出版記念会を企画させて頂きました。どうぞ我が団長先生のお祝にお出かけ下さい。

日時 平成五年九月四日(土) 午後三時より

会場 ホテル新潟 (こ照会とは同窓会事務局へ)



〈寄稿〉

# 玲瓏の天

「玲瓏の天」で始まる旧校歌。この旧校歌の歌詞について  
の経緯ならびに提言を学校に寄せていただきました。みな  
さんにご紹介したいと思います。(編集部)

## 旧校歌の歌詞は原作で

### 46回 富所強哉

結論を先に言う。旧校歌「玲瓏の天」の歌詞は原作ど  
おりであつて欲しい。  
去る五月十三日行われた東  
京青山同窓会の新人歓迎会  
のことである。大先輩の一人  
から「これ違っているんだよ  
ナ」と声をかけられた。それ  
は配布資料にある旧校歌「玲  
瓏の天」五番の「真白き砂の  
丘の上」のことで、年次によ  
り歌う歌詞が違ふため斉唱の  
時にいつも混乱し気になつて  
きたことである。吾々の時は  
「白砂塵なき丘の上」であつ  
た。  
百年史に改訂の記事があり  
根拠として文部大臣の認可を  
伝える原課長からの文書の追

の都度いろいろで、手元にあ  
るものを列挙すると六十周年  
記念の青陵回顧録では原作の  
まま、七十周年記念の会員名  
簿では「名を挙げて」「真白  
き」とあつたが二三年前に同  
窓生の母校教師から頂戴した  
新入生のための校歌応援歌の  
プリント(旧校歌は一五番だ  
け)では嬉しいことに原作の  
「白砂」であつた。先般の百  
周年記念の会員名簿では四番  
が原作の「覇者」で五番は何  
故か「真白き」となつてい  
る。改めさせられた原因は原  
作四番の「裏日本の覇者とし  
て」の「覇者」が当時賛美ど  
ころか絶対視されていた「皇  
道(王道)」に反すためで、  
戦時中のことはすべて悪い  
と言つてもいいし、現在  
では「名を挙げて」「真白き」  
に馴染んだ会員の方が多いか  
とも思うが、習い覚えた原作  
に郷愁を持つからだけでなく、  
作詞者が想を凝らした原作の  
とおりであるべきと考えるの  
は私だけであるまい。

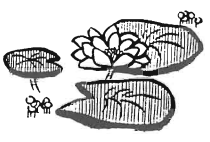
あろうから、二とおりの歌詞  
による斉唱の混乱は暫くは続  
くであろう。これを避けるの  
に一番だけというのは五番ま  
で通して歌いたいという人も  
いるのにあまりにも淋しいし、  
一五番でなく一二番でいくの  
も一法かと思うが是非五番を  
という人も多いようなので混  
乱は止むを得ないのかも知れ  
ない。

## 広野先生の思い出

### 98回 滝沢 修

この春ご退職の広野先生に  
は、私が二年生のときに生物  
を担当して頂いた。「今の世  
の中を動かしているのは文系  
の人達である。彼らには理科  
的発想がないので深く考えず  
に木を切り、自然を破壊する。  
それではいけないので文系の  
諸君はせめて生物くらい一生  
懸命勉強してほしい。」とい  
う先生の言葉は今も心に残っ  
ている。先生には勉強のこと  
で少なからずお世話になつた  
が、ここでは特に強烈に印象  
に残っているエピソードを紹  
介してみたい。

ついで乍ら前記歓迎会で応  
援歌のリードを注文しても例  
年はせいぜい謂所「青山」だ  
けだったのが、今年が新人代  
表が数曲の音頭を取ってくれ  
たのは、校歌応援歌が年次の  
離れた同窓生の最も強い紐帯  
と言いつけた者として喜ばし  
い限りであつたことを付記す  
る。  
今回教育実習生として母校  
の教壇に立つという機会を得、  
学生の立場から一転教える側  
になつて、分かるように教え  
ることの難しさ、そして生徒  
を正當に評価することの困難  
を実感した。あのときのレポ  
ートの評価も同じレポートが二  
枚あつたことに対する制裁な  
のか、それとも大ヴェテラン  
には珍しいミスであつたのか。  
今度お会いしたら私の教育実  
習での経験もふまえていろい  
ろお話ししてみたいと思つて  
いる。





【寄稿】

# 先輩・會津八一のこと

## 58回 早川哲夫

母校の前庭、通信制棟の脇に一基の歌碑がある。あまり大きくないうえ、いつも前に駐車しているのが気が付かない人が多いかもしれないが、會津八一の自筆になる歌碑である。創立八十周年を記念して昭和四十七年に立てられた。「ふなびとははやこぎいでよ ぶきあれしよひのなごりの なほたかくとも」



在りし日の會津八一(昭和28年)

ところで、會津八一といっても最近の卒業生は、青山の先輩であることを知らない人が多くなってきた。會津八一そのものを知らない人すらある。

會津八一。書家。歌人。早稲田大学名誉教授。東洋美術史学者。英語教師。新潟市名誉市民。俳人。そして何よりも青山の第七回卒業生なのだ。諸兄諸姉はこのうちいくつかの顔をご存じであろうか。

今回は編集部依頼で、数ある會津八一研究家をさておいて、ほとんど面識のない遙か後輩の私が紙面を汚すことになったが、心の中の會津八一

一を、最近皇族の来館で一躍有名?になった會津八一記念とあわせて紹介して責めを果たしたいと思う。

小生縁あって會津八一記念館の事務長を勤めることになって、まず驚いたのが八一の幅広い活躍のことだ。日本のレオナルド・ダ・ヴィンチに例える人があるのも無理ないと思う。

會津八一は明治十四年新潟市の中心古町五番町に生まれ

た。いま、その地に歌碑が立っている。余談だが、あの歌碑は内容からいって母校の校庭に欲しかった。

「ふるさとのほまのしろすな わかきひをとにもふみけむともをしぞおもふ」

八月一日に生まれたので八一と名付けられたというが、なぜか尋常中学校在学中に書いた有名な「端艇部脱会願」には弥一と署名してある。戸籍上の名は八一なのだ。戸ともあれ、八一は当時の学制にしたがって小学校四年、高等小学校四年を経て日新戦争の終わる明治二十八年に新潟尋常中学校(現新潟高校)に入学する。満十三歳であった。そして五年間在学して明治三十三年に卒業するのだが、病気もあって二年後に早稲田大学に進む。以後昭和二十年四月戦災に遭って中条町へ疎開するまで、ほとんど東京に住み、新潟とは縁が遠くなる。ほとんどと書いたのは早稲田卒業後四年間だけ、現在の有恒高校で英語教師を勤めているからである。

衣食を削って集めた万巻の書や資料を戦災で失い、傷心を抱いて新潟飛行場におり立つたときの感懐を詠んだものである。

当時に熱心に書作に打ち込んだかを示す遺品が記念館にある。角がすり減ってトロトロに光った紫檀の文鎮である。南浜に越して間もない二十二年一月に、写真家の浜谷浩氏が撮影した揮毫中の八一の写真がやはり記念館にあるが、その写真では少しもすり減っていない。亡くなるまでのわずか十年たらずの間にこれだけすり減らしたのかとただただ驚き感心させられるばかりだ。

こうした遺品をはじめ書や原稿、日記、書簡などを収集展示している會津八一記念館は、母校裏から日和山へ続く遊歩道の脇にある。義理にも大きいとか立派とか言えないけれども、何よりも簡素と平明を大切にされた秋艸道人會津八一にふさわしいたたずまい

を見ている。男の子と杉の木は育たないといわれる新潟の地に生まれながら、天下に名を馳せた會津八一は昭和三十一年十一月二十一日、新大医学部付属病院でその生涯を閉じる。享年七十六。墓は西堀三の瑞光寺と練馬の法融寺にある。(會津八一記念館事務長)

終戦後の激動期。六年間の通学体験をもつ六十回生が、青山百周年を記念して「青山夢像館」(A5版・箱入上製本)をこのほど制作刊行した。恩師十八人の御執筆を含むこの一冊は、木造校舎の濃厚な時間を永遠に漂わせている。頒価 五、〇〇〇円 (六十回生以外の同窓会員) (送料 八〇〇円)

## 九百三十頁余の大冊 「青山夢像館」刊行さる

◎照会は同窓会事務局へ。



「寄稿」

# 復活

## 62回 河野 開

晴天の霹靂ではない。半年前に激しい目眩の前兆があった。国立大学の神経内科で受診した。八年前のことである。半年後五十歳五ヶ月の時に二度目のアタックに襲われ、再び同科に駆け込んだ。即入院です。検査の結果は、右中大脳脈領域の脳梗塞で、梗塞の範囲は相当広い範囲だった。

となったリスクファクターは不明、試行錯誤を繰り返しているばかりで、全くのノーケアの間三度目のアタックがあった。ここで味覚が半減した。八十三日で退院。結局リスクファクターは、高血圧でも、高脂血症、動脈硬化でもなく、ストレスということになった。

半年前の受診の時は、一時的な脳底動脈の血流不足と簡単に片付けられたのに、相当な範囲の梗塞とは、これこそ晴天の霹靂でした。

「貴方は仕事も、ストレス解消のための遊びも一生懸命になり過ぎるため、すべてがストレスになっているのです。ライフスタイルを変えないと取り返しつかないことになりまよ。」というのが主治医のご託宣でした。未だ生々しい覇気に満ちた会社社人間にとっては厳しい宣告でした。

日本人の死亡原因の四分の三が、ガン、脳卒中、心臓病だとすれば、確率は四分の一である。何も自分だけが特別籤運が悪かったわけではない。ただ五十歳とは少し早すぎるな、別に死ぬと決まった訳でもないのに、ベッドでそんなことを考えていた。まな板の上の鯉、延々と検査スケジュールというエスカレーターに乗せられた。患者の発病の原因

結局復職しても半減した能力のまま、自分も周囲もごまかして、発病前の地位にあるのに堪えられず、家族には大変申し訳なかったが、一年後に三十年間の宮仕えにピリオドをうちました。それから文

字どおりの閉門蟄居、濡れ落ち葉と化した二年間でした。何もしないということは、罰が当たります。使わぬ諸器官は退化します。心肺機能もガタガタになります。家の中の階段の昇降にも、フウフウ肩で息するようになるし、心も鬱状態に落ち込む一方となり、何をやる気力もなくなり、向

上したのはワープロぐらいでした。働かぬのに、製糞機能だけは一丁前なものですから、十年來の新潟好泳会（水泳愛好者の友好団体、市民大会の常連）のメンバーとして水泳で鍛えて年不相応に逞しく引き締まっていた体は、みるみる豚体と化して、合う洋服も皆無となりました。外出も儘ならず、出口のない土壺にはまったような有り様でした。まさに働かざる者食うべからずです。そして文字通り生きる屍を体験しました。それも真面目に通院し、投薬もきちんと服用しておりました。

突然ある朝目覚めたときから、左半身が何とも形容し難い痛みと痺れを覚えるようになります。それが間断なく二十四

時間休む事なく続くようになりました。同科で診断の結果はMRI&CTスキャンの所見に変化は見られないとのこと。それでも投薬の副作用ではないかと、サンチョパンサを連れないドンキホーテのように、大病院を相手に国家賠償も辞さぬと、最初からの経過を見ると医療事故に相当するのではないかと息巻いたりました。痛み、痺れを治す療法なし、不治と悟らせられた時が立ち直る転機となりました。

開き直ります。鈍った体を立て直す為に、散歩から始めてみました。季節も良かったので恐る恐る誰もいない海を三年振り泳いで見ました。左半身と右半身の感覚の違いに戸惑いながらも、ともかく、クロールも平泳ぎも背泳ぎもこなせました。好泳会にも復帰し、プール通いも再開しました。体力が回復すると精神も前向きに充実して来ます。まもなく全く畑違いの事業を始めました。ともかく濡れ落ち葉族を脱することができました。

幼き日、亡父から泳ぎの手

# 青山ゴルフ会 春の大会紫雲で

ほどこきを受けた日本海、母なくなつたようで、心境は達観する日。極めて意気軒昂ですが、近くの海に向こうの心霊治療でも受けてみようかと思っております。



恒例の青山ゴルフ会の春の大会が七月一日（木曜）紫雲ゴルフ場において、三十四名の参加の下、盛大に挙行されました。優勝は64回江口一弥さん、準優勝は63回渡辺昌夫さんでした。シニアレイスは60回斉木守雄さんが優勝、59回畠中勝さんが準優勝。学年対抗では64回が優勝しました。いつもはゴルフ場でやっていた表彰式を今回は市内に戻ってから開催。和やかな歓談の時をもちました。次回秋の大会は十月二十八日（木曜）紫雲ゴルフ場で行います。参加希望者は同窓会事務局に早目にお申し込みください。



# 第七十一回卒業 さんぱち会三十周年 記念総会

## 記念総会

一〇二人の顔が戻って来た  
……。昭和三十八年卒業から  
ちようど三十年を迎えるとい  
うことで記念事業を含めた記  
念総会を実施しようと幹事一  
同フル回転。お蔭さまで、当  
日参加も含めて百人そして小  
田先生、滝沢先生を加えたい  
顔が百二つ揃った次第。快晴  
の六月十三日、有志参加のゴ  
ルフコンペを新津カントリー  
でおこなった後、総会及び懇  
親会を新潟市の篠田旅館で盛  
大に開催した。前回の湯沢温  
泉開催から五年振り、開宴前  
から懐かしい顔を見つけての  
車座がそこかしこに生まれ、  
早くも話に花が咲く様子を三  
十年前へのタイムトリップを  
見る思い。やがて、野沢正樹  
幹事司会のもとで、山内幹夫  
代表幹事が開会を宣言し、開  
宴となった。今回の会場は同  
じく幹事の篠田正志君が社長  
をつとめる篠田旅館というこ  
とで、終宴時間制限なしのデ  
スマッチ大宴会を覚悟しても



らっていた。篠田君にはご迷  
惑の極みであったろうが、お  
蔭さまでゆったりとした実  
に楽しい進行ができた。足を伸  
ばし、ごろりと横になり、車

座のミニクラス会やグループ  
会を堪能してもらえたのでは、  
と思っっている。八クラス担当  
教諭の方のうち外川先生、川  
島先生、宮部先生が故人とな  
られた。また、同期会員のな  
かでも八人が亡くなっている。  
参加者一同、黙禱により故人  
の冥福を祈った次第。記念事  
業は学校とも相談し、テント

五張りを寄贈させていただい  
た。翌日の十三日が青陵祭と  
のことで、当日のお披露目が  
できるよう業者さんに間に合  
わせてもらった。千七百人余  
の後輩が見守るなか、真白な  
テントを前に贈呈式を実施し  
てもらい、私たちの「さんぱ  
ち会」は終了した。五年後の  
再会がより楽しいものである  
ことを祈っている。

卒業後何年経ても青山で過  
ごした三年が各自の人生にお  
いて大切な糧となっている。

**ボート部OB会総会開催**  
**部史「漕艇百年」完成**

青山艇友会 幹事長  
75回 渡辺研二

★総会開催  
新潟中学端艇部、新潟高校  
漕艇部OB会は青山艇友会と  
称し、母校漕艇部の後援等を  
行っており。毎年総会を  
開催しておりますが、今年が  
第十六回目、三月二十六日  
新潟市の田中ホテルにて開催  
されました。

当日の総会は事業報告、決  
算報告、事業案、予算案、役  
員改選、漕艇部の活動報告等

全国に散らばった三八〇人の  
内一〇〇人も集まったことが、  
それを切実に物語っている。  
奇しくも私たちと同じ日に、  
卒業四十周年の第六十一回、  
同二十周年の第八十一回のこ  
なさんが会合を持ったとのこ  
と。同窓生一同に幸多からん  
ことを。

なお、ご出席いただいた小  
田先生は母校で化学の非常勤  
講師をされ、滝沢先生は現校  
長でいらっしやる。

(71回 中村)



を經てから懇親会に移りまし  
た。二十四名の出席を得た懇  
親会は、初めての女性  
の参加（それも二名）  
で大いに盛り上がりま  
した。例年は、老から  
中までが主流で、若手  
は片身の狭い様な雰囲気  
でしたが、若い女性  
は会に花を添えるよう  
で大変に結構なことで  
した。これを機会に若

い男女の出席が多くなればと  
望んでいる次第です。  
当日の出席者

46 片桐英一	53 前川治一
55 砂山 晃	58 五十嵐治
58 加藤高弘	60 坂上隆一
60 内山真一	61 南波誓治
62 高見武雄	62 原 正雄
68 笠原紘洋	72 富田省一
73 杉本憲治	75 吉田芳郎
75 渡辺研二	78 河田弘行
78 水沼真一	80 桜井 優
80 佐藤正昭	99 石田智子
100 齊藤紀子	

顧問 大橋禎助 高橋伸二  
顧問 丸山正彦

★部史「漕艇百年」完成  
ボート部の伝統は中学端艇  
部、高校漕艇部と受け継がれ  
ており、その歴史は百年にな  
ろうとしております。ほぼ一  
世紀にわたるボートにおける

青春の軌跡を一冊の本にまと  
めることが出来ました。読み  
ものとして非常におもしろい  
構成になっております。師範  
商業、中学の三校事件。会津  
八一のこと。琵琶湖での一尺  
の差。関東選手権優勝等々、  
平成四年迄のことがぎっしり  
と内容豊かに盛り込まられて  
おり、よくもこんな資料があつ  
たと驚くとともに非常に読み  
ごたえがあるものです。A五  
版、二段組、三五二頁。広告  
をいれないで、なんとかOB  
会単独でつくることができま  
した。

会員限定版ですが母校には  
数冊寄贈いたしました。興味  
ある方は図書室等でご覧いた  
だけるかと思ひます。ボート  
部OB以外の方で、資料とし  
て購入なさりたい方は、卒業  
回数わかるようにして葉書  
かFAXにて問い合わせをし  
てください。送料込み六千五  
百円。

新潟市小針台1の10  
渡辺研二 気付  
青山艇友会事務局あて  
(〒950-21)  
FAX 025-267-  
0214 (専用)



# ハイティーン水泳 新中・新高 ⑬

## 60回 平田大六

### 29 国体から帰って

一九四九年高校一年生の時、補欠選手で第四回国体水泳競技で横浜へゆき、古橋広之進の泳ぎを野毛山プールで見ただことは、強烈な印象となつて残つていた。その古橋選手が同じ大会で、こんどはウォーターポロ（水球）にも出場する、というのん気な時代ではあつたが。

その国体から帰つてくると、私はもうタダの人になつていた。いまほど、スポーツ選手がチャホヤされる時代ではなかつた。日本が戦争に負けてから、わずか数年後のことであつたから、これは無理ないのかも知れない。しかし、たとえば皇室のできごとでも過熱ぎみに報道されたりそれを受け止められたりする現代の風潮をみると、私は、ハイティーン水泳の時代の素朴な空気がいまはなつかしい。

これでシーズンのすべての大会のスケジュールは終わった。しかし、九月いっぱいはい

まはなつかしい。儀式といつても、たいしたものではない。

九月の最終日。三年生が部をゆづつてゆく儀式があつた。

### 30 三年生の引退

下級生全員が、部室（ぶしつ）に集められて正座させられる。部室は木造の粗末なもので、私たちの座った膝（ひざ）の下の木の床は、その板があちこち穴があいたり浮いていたりした。私たちは目をつむらされてはいない。

三年生は、前にずりりと立っている。「これから部をゆづるっけな」と主将の中村均（58回）さんが話をきりだした。「キャプテンは児玉（光一59回）がやれや」。これで終りである。あとは、三年生が一人ずつ、思いついたことを一言二言話すだけだ。それも、前もって考えていたようには見えず、「新高水泳部の名に恥じないように頑張れや」とか「来年は優勝してくれや」とか、月並みで変わりばえのないあいさつであつた。

「実力」の順序で話すものだから、最後のほうの三年生は言う言葉がなくなつてしまひ気の毒なくらいであつた。

「儀式といつても、たいしたものではない。」

三年生ももうタダの人になつてしまふ。部というものには、なんの権限もなく

輩としての「尊敬」が残る程度であろうか。退職された役人が民間会社に勤務するようになるものだ。

私、これを見ていて、やっだ、とおぼろげながら体感し

**平成四年度 青山同窓会会費納入者追加分**  
 (1月より3月までに納入のもの)

納入先  
 (郵便振替口座 新潟 5-4455 青山同窓会)  
 (第四銀行学校町支店口座 0275210 青山同窓会)

- 27回 卯吉 雄三 清平 郎次 三雄 助武 吉二 吾夫衛二 雄 成雄 郎門 一 助弘
- 28回 武孝 東六 政廉 豊吉 之
- 31回 田倉口 原山 32回 原山 34回 原山 35回 村 36回 藤中 37回 門俊 38回 達沢 柄川 野 40回 俊平 靖慎 弥
- 水塚 岩名守 笠庭 上飯 斉田 村田 安小真 皆細 高会字 片真 浅南山

- 42回 悦次 政二 真佐 廣種 貞 43回 藤田 藤橋 橋城 井岩 藤木 川 44回 田野 45回 敬俊 明 茂隆 隆 46回 鐵遠 良 47回 和辰 六 輝 俊 義
- 加串 佐高 高東 倉黒 近波 皆 池中 阿大 川白 鈴関 笹 鶴水 堀 木古 吉渡 秋高 真
- 平夫 治宏 郎男 清雄 臣男 正 助 彪 宇夫 義 丘男 男三 三吉 平 郎 郎 澄 明 雄 明
- 愛回 光 文 裕 行 卓 喜 正 卓 淳 欣 蓮 昭 素 繁 康 良 三 志 常 良 積 靖 俊 光 勝 俊 寛 辰 文 友 文 守 信 富 元 哲 賢 亨 康 善 通 和
- 49回 林 崎山 50回 田風 川坂 木田 田 51回 倉地 路名 藤 藤 田 葉 52回 川村 藤 沢 川 橋 保 53回 部野 根 橋 口 瀬 沢 54回 井子 山 谷 木 村 力 田 倉 山 神 原 林 丹 竹 石 五 大 達 龍 鶴 渡 朝 厚 河 桑 青 青 島 千 磯 乙 北 青 高 長 高 真 阿 飯 関 高 野 野 藤 新 金 小 笹 鈴 田 等 原 保

- 62回 留正 富亮 昭 良 德 晴 康 敬 吉 正 正 浩 昌 喜 三 代 郎 之 明 平 明 次 正 弥 臣 雄 磨 也 躬 郎 良 治 一 皓 行 青 則 利 明 二 碩 梁 孝 央 智 三 登
- 木柳 潤 崎 田 風 藤 野 木 井 山 原 崎 根 井 藤 田 山 浦 田 64回 口 賀 本 野 部 田 田 居 滑 谷 津 井 野 山 地 井 本 沢 岡 部 津 沼
- 青 青 岩 石 岩 五 齊 佐 鈴 鈴 寺 遠 平 山 山 市 會 佐 土 庭 三 村 江 坂 志 塚 畑 阿 石 梅 鎗 木 波 根 藤 大 福 福 星 坪 橋 松 丸 阿 海 普
- 敏夫 彦 衛 夫 郎 男 三 恒 一 男 夫 哉 哉 夫 夫 二 男 男 男 一 夫 雄 行 三 雄 夫 吾 雄 夫 彰 郎 雄 夫 男 嵩 嘉 夫 一 三 一 文 夫 假 義
- 益 淳 回 敏 幸 弘 尚 隆 正 順 謙 陸 龍 末 欣 紀 哲 昭 俊 俊 正 貞 英 恒 重 省 吉 三 陽 文 友 文 守 信 富 元 哲 賢 亨 康 善 通 和
- 尾 際 川 上 田 崎 林 由 川 藤 熊 田 田 村 桐 嶋 条 中 上 嵐 林 熊 田 林 登 藤 口 田 川 辺 60回 部 山 木 川 部 馬 田 嶋 田 川 川 澤 山 田 辺
- 宮 山 芋 井 岡 川 小 中 村 齊 残 山 生 植 片 倉 近 三 田 井 五 栗 小 岡 小 能 佐 樋 吉 吉 渡 阿 入 奇 長 阿 相 池 小 川 長 古 丸 村 渡

夫郎 克昌 市 昭 潔 勇 衛 教 陸 肇 一 史 嘉 攻 義 衛 雄 夫 滋 郎 惠 吾 哲 郎 平 一 彦 一 茂 邦 泰 司 一 夫 子

信 三 忠 十 宣 義 吉 紘 正 泰 正 牧 忠 紀 士 健 眞 紘 太 新 昭 正 昭 正 壽 光 祐 浩 和 聖 智 子

橋 橋 口 山 田 68回 風 見 中 田 69回 義 宮 田 浦 70回 子 林 藤 本 田 下 田 井 宮 71回 上 杉 倉 野 上 72回 田 山 田 73回 山 田 田 75回 山 田 田 76回 藤 輪 78回 風 79回 高 橋 田 保 92回 美 智 子

高 高 谷 福 山 五 高 田 原 高 田 土 樋 金 小 齊 杉 西 宮 村 森 山 井 上 熊 秋 川 池 小 神 上 近 箕 五 十 高 前 阿 江

後輩の活躍

五十島啓人君(フェンシング)らインターハイへ出場

◎県総合体育大会

●陸上部(男子) 110M ハードル2位 石山匡美、400Mハードル6位 奈良井省太(女子) 400M 1位 小林幸恵、400Mリレー2位

●水泳部(男子) 100M自由形1位 勇崎義紀、200M自由形1位 勇崎義紀、400Mリレー5位(女子) 100Mバタフライ3位 小縣文、200Mバタフライ2位 小縣文(水泳は7月下旬に行われる北信越大会で、インターハイ出場選手が決まる)

●軟式庭球部(男子) ベスト8(田中・笠原) 北信越大会出場

●卓球部(男子) シングルス9位 本間梓 北信越大会出場(女子) ダブルス1位(薬科玲子・綾子) インターハイ出場、シングルス3位 薬科玲子 インターハイ出場、同8位 薬科綾子 北信越大会出場

●サッカー部 ベスト4

●ラグビー部 3位

●柔道部(男子) 軽量級3

小田憲二、同ベスト8 木村伸司、中量級ベスト8 佐藤文彦 以上、北信越大会出場(女子) -52kg 級1位 鈴木優子

●剣道部(男子) 個人ベスト8 広瀬千尋、団体3位 以上、北信越大会出場

●登山部 優秀校

●庭球部(男子) ダブルス2位(鈴木・田中)、シングルスベスト9 鈴木有祐 16歳以下シングルスベスト4 桜井毅 以上、北信越大会出場

●フェンシング部(男子) 団体1位、サーブル1位 五十島啓人、エペ6位 磯辺直孝(女子) 団体2位、フルール2位 米岡紘子、同3位 本間香子(男子) 団体、五十島啓人、米岡紘子 インターハイ出場

●ボート部 舵手付フォアA3位、同B4位、ダブルスカル2位(森田・小林)、ナックルフォアB2位、同A4位、シングルスカル2位 早福大樹、同4位 富樫孝文 以上、北信越大会出場

●空手道部 女子団体型1位 北信越大会出場

◎北信越大会

●陸上部(男子) 110Mハードル3位 石山匡美(女子) 400M6位 小

大学入試の結果から

今春の入試状況を全国的にみますと、不況が影響してか、昨年までとは異なり、大きく様変わりをしました。国公立大学への入気が回復し、大都市圏を中心とした私立大学で志願者が大幅に減少しました。そして、学部選択でも経済、商、法学部等の志願者が減り、医、歯、農学部などが増加しています。ここ数年の傾向ですが女子志願率が更に高まり、従来、男子の分野と思われていたところへ大きく進出してきています。合格者の結果は旧帝大を中心とした大学で入試難易度が高くなりました。

それに対し、私立大は上位校において入試レベルがダウンした大学が目立っています。国高最低の現象は受験生が国立大学の安定感を選んだものと考えられ、今後も続くものと予想されます。さて、本校の大学別の合格者数は別表の通りですが、国公立大における現浪の合計人数三六七名(延べ人数)は学校規模の違いがあつて、一概には比較できませんが、数の上では全国の公立高校の中でトップの鹿児島県の甲南高校(四九五名)から数えて二十位となっています。進学率の高まりとともに他県の進学校では進路指導体制の確立を学校全体で取り組む

林幸恵、400Mリレー5位

●軟式庭球部(男子) ベスト8(田中・笠原)

●卓球部(女子) シングルスベスト8 薬科玲子、ダ

職員の変動(平成五年四月)

全日制 退職 転出 転出先 教諭 遠山圭一 退職 田端与利男 関根彰圓 野坂泰司 金井芳夫 広野樹 枋倉喜義 田中英智 小泉 正 寺泊高教頭 遠間春彦 湯沢高 非常勤講師 佐藤洋子 辞職 本間久恵 笹神中学 通信制 教頭 伊達 優 糸魚川高教頭 教諭 荒川 充 小千谷高 佐藤尚志 新潟南高 常勤講師 庄司朗子 辞職 非常勤講師 山谷里希子

事務 主事 佐藤祐暢 新潟土木事務所 高橋和子 法人 自動 車税事務所 帆刈喜久男 新発田高 岡村 真 柿崎高 灰野正宏 中条高 田原誠一 糸魚川高 猪又 齊 寺泊高 荒木 勉 教育センタ 渡辺富栄 新潟江南高 田村 裕 三条高 非常勤講師 関根彰圓 新潟高 外山東子 新採用 通信制 教諭 児玉 伸 高田高 萩野裕子 中条工業高 鈴木捷雄 新潟南高 常勤講師 西條 隆 堀之内高 非常勤講師 大野亮子 新採用 事務 主事 宮田都美枝 ガンセン 市橋弘信 新採用

ブルス3位(薬科玲子・綾子) フェンシング部(男子) サイプル4位 五十島啓人

●空手道部 女子団体型ベスト8

●空手道部 女子団体型ベスト8

ます。(進路指導部長 中村新平)

◎全国高校囲碁大会県予選 照基部 男子団体 全国大会出場、個人1位 中野 祥孝 全国大会出場

Table with 3 columns: 大学名, 人数, 割合. Lists various universities and their student counts and percentages.

高校が目立ってきています。本校もこの努力は続けていかねばならないものと思つてい